

棚田オーナー制が定着し、企業、大学などに参加の輪が広がる

2. 石部の棚田【静岡県松崎町】

範 囲	西伊豆の石部(いしぶ)地区の集落入口から山に向かって約 1.5 km 遡った所、標高 120m ~ 250m の範囲に広がる水田。(棚田枚数約千枚、総面積は 10ha におよぶ)	
所 在 地	静岡県松崎町石部	
生 物 地 理 区 分	コナラ林(東日本)	
環 境 要 素	水田()、小川・水路	
自然条件	地 形	松崎町は、北・東・南の三方を天城山系に囲まれ、西は駿河湾に面している。那賀川、岩科川の流域には約 500ha の耕地をもつ伊豆西海岸最大の平野を形成している。
	植 生・生物等	当地区の棚田には、スミレ、山アザミ、エビネ、ホタル、キジ、メジロ、リス、ノウサギなど多様な生物が生息している。 また取組の成果として、ホタルやミズカマキリが見られるようになるなど、自然環境も著しく好転している。
		 <p>撮影時期： 駿河湾を望む絶景が広がる棚田</p>
社会条件	人口(市町村)	7,642 人(農家率 17.3%、副業的兼業農家が多い) 松崎町のデータ(H22年)
	土 地 利 用	町総面積の 3.8% が田畑、84.9% が山林である。 松崎町のデータ(H22年)
	歴 史・文化	松崎町石部地区の棚田では、古くは江戸時代から昭和 30 年頃まで約 18ha で連続と稲作が続けられてきた。また養蚕が盛んで、また良質な伊豆炭の生産が行われたほか、恵まれた自然条件を活かした花卉栽培や沿岸漁業なども行われてきた。
法指定、行政による評価の状況	自然環境・景観保全や国土保全に関わる地域指定等	該当なし
	すぐれた自然、景観、伝統文化などとしての選定	「静岡県棚田等十選」に選定(H11) 農水省「立ち上がる農山漁村」に選定(H19 年度) 朝日新聞社、(財)森林文化協会「にほんの里 100 選」に選出(H21)

取組主体	タイプ	地元集落等:集落、地権者など地元の関係者が中心となった取組		
	主な主体	名称	概要	
		石部地区棚田保全推進委員会	地域の棚田を復元し、地域の活力を取り戻す目的で、地区の有志により発足	
経緯	<p>観光業が主要産業である石部地区は、近年の宿泊客の減少により活力が低下し、農業も担い手不足や高齢化等により、駿河湾を見渡す郷土の原風景である棚田の90%以上が耕作放棄されていた。</p> <p>平成11年、「静岡県棚田等十選」に選定されたのを契機に、地元の農業者からなる「石部地区棚田保全推進委員会」を立ち上げ、地元住民や「しずおか棚田くらぶ」を中心とする一般ボランティアの協力を得て、棚田の開墾・復田作業を行なった。</p> <p>平成14年からは静岡県初の棚田オーナー制度を導入。棚田オーナー等との交流は、地元住民に活力をもたらすとともに、地区の民宿業等へ経済効果をもたらした。</p> <p>また、地元小学生や県内大学生の農業体験の受入や、商工会等と連携した、棚田で収穫した黒米を原料とした特産品の開発に取り組みむなど、地域内外を巻き込んだ協働を展開し、地域を活性化させている。</p>			
支援措置	該当なし			
取組の目的・目標	石部地区では、半農・半漁・半観光と様々な関わりの中で生活が営まれているが、棚田保全事業を通じて、異業種の相互理解のもとに一次から三次産業まで皆が潤える地域作りをめざしている。			
取組分野内容	農林業を通じた里山や草地の利用(管理)の維持・活性化	・棚田の開墾・復田作業 ・棚田オーナー制度の導入(県内だけでなく首都圏などの県外からも多くの人が棚田に訪れている) ・「一社一村しずおか運動」:大学生による棚田の日常管理の手助けや、棚田米焼酎の販売に関わる業者による売上げの一部を寄付する取組により、新たな協働の輪を広げている。		
	バイオマスなど新たな資源としての利用	[対象となる資源] 該当なし		
	環境教育や自然体験、エコツアーリズムの場としての利用	自然観察会	地元の小学生による生き物採集	
		環境教育・学習活動	地元の高校生が脱穀体験	
		里地里山体験・環境保全	棚田の田植え・稲刈り体験、富士常葉大学による畦きり・草刈りなどの環境保全活動	
		農林業体験活動		
		エコツアー		
	その他	県内の大学生による動植物の研究活動		
	野生動植物やその生息地の保全・管理	棚田に生息する動植物について、県農林技術研究所と県内の大学が共同研究を実施している。		
	地域の良好な景観の保全・修復	地元と多くのボランティアが協力して、耕作放棄されていた棚田を徐々に復元し、美しい農村景観を取り戻しつつある。水田として利用していない棚田には景観作物を植えるなどの工夫も行なっている。		
里地里山の伝統的な生活文化の知恵や技術の継承	対象	生活行事	かつての山津波で流れてきた棚田の巨石で行われるどんど焼き [文化財指定] なし	
		資源利用技術		
		その他	かやぶき屋根のふき替え・畔塗り作業	
			石部の棚田の象徴とも言える休憩小屋の屋根が傷んできたため、かやぶき屋根作りの技術を持つメンバーの指示のもと、保全推進委員会で補修を行なった。	
連携・協働	棚田オーナーやトラスト会員、ボランティア組織「しずおか棚田・里地くらぶ」の会員などと協働で田植えや稲刈りなどの作業を行なっている。また、県の推進する「一社一村しずおか運動」で(株)アストラゼネカを受け入れ、復田や草刈りなどの作業を行なっているほか、富士常葉大学の学生が、年に3回程度、泊りがけで石部を訪問し、畔きりや草刈りなどの日常管理を手伝っている。さらに、商工会と連携した棚田米焼酎、黒米うどん、黒米パンなどの商品開発や、居酒屋と連携した棚田米メニューの提供など新たな取組も始まっている。			



撮影時期：H14年10月

地元の方や棚田オーナー、親子連れなど多くの人で賑わう棚田の稲刈り

撮影時期：H22年12月

棚田から見る富士山。四季折々、様々な景色を見ることが出来る。

景観としての
利用・評価

写真集などの出版物がある
観光パンフレット等に写真が使用されている
風景探勝や撮影の来訪者が多い

取組の特徴

地元での棚田見直しをきっかけに棚田米存続にむけた地域内外を巻き込んだ協働を展開、地域活性化にも寄与している。
地元農業者が集落の住民やボランティアの協力を得て棚田の開墾や復田作業を行い、美しい農村風景を回復。棚田オーナー制により、首都圏など県外からの来訪者も多く、さらに棚田米焼酎、黒米うどん、黒米パンなどの商品開発にも取り組む。企業 CSR(一社一村しずおか運動)、大学生のボランティアによる日常管理への労力提供、焼酎販売事業者による売上一部の寄付など、協働の輪も広がっている。

【参照資料】

静岡県HP (<http://www.pref.shizuoka.jp/index.html>)

Webしずおか (<http://www.wbs.ne.jp/>)

農林水産省HP

財団法人農村開発企画委員会HP (<http://www.rdpc.or.jp/index.html>)